

1 ガイドラインの目的と位置付け

初めて伊勢路を歩くすべての旅人が、伊勢から熊野まで安全かつスムーズに伊勢路を踏破できる案内をめざします。

2 現状及び課題

▶案内看板の整備状況

- 伊勢路沿道では、世界遺産登録前からさまざまな団体が案内看板を整備してきました。

▶案内看板の整備に関する課題

- 史跡、施設等の名称表記、看板のデザインが不統一
- 日本語表記しかない
- 峠と峠をつなぐ街中の案内が少ない 等

3 対象範囲

伊勢路を歩く旅人が現地で目にするもので、安全かつスムーズに伊勢路を踏破するための情報提供機能を持つもののうち、今後、設置・更新する案内看板を対象とします。

(熊野古道のルート外に設置する道標、熊野古道のルートへの誘導を目的とする道標を含みます)

類型	道標	記名看板	総合案内板	解説板
機能	目的地への誘導、伊勢路ルートの確認	史跡、施設等の名称や位置を示すもの	地域の全体像の把握と現在地の確認	史跡や自然景観等の解説
案内看板のイメージ				

4 ルール化する項目と内容

文字表記	日本語・英語それぞれにおいて、視認性の高い書体を使用します。必要な視距離に応じ、見やすい文字の大きさを確保します。
色彩	文字・矢印は「白色」を、背景は「濃茶色」を基本とします。
表示する情報	初めて伊勢路を歩く旅人にも分かりやすいように表示する情報の記載基準を統一します。
英語表記	多言語表記は、日本語及び英語（ローマ字）を基本とします。

【表示する情報】

- 記載基準を統一
- 史跡、施設等の名称・矢印
 - 熊野古道の名称
 - 設置者と設置年月 等



【文字表記】

- 視認性の高い書体を使用
- 英語の文字の高さは、日本語の3/4を確保

【英語表記】

日本語と英語の併記を基本

【色彩】

文字・矢印は白色
背景は濃茶色

5 運用方針

- 統一的なルールが「地域の約束事」として運用され、定着するように、チェック機能を仕組み化します。
- 史跡等の名称表記が、地図、ガイドマップ等でも統一化されるように、関係者にガイドラインの活用を求めます。